

報道関係者各位

2010年10月6日

森ビル株式会社

森ビル COP9 に続き

「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」に参加 都市再開発の緑化に“生物多様性”を考慮 アークヒルズで生物多様性を学ぶ親子ツアーも

森ビル株式会社は、10月11日(月・祝)より愛知県・名古屋市で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」に合わせて開催される「生物多様性交流フェア」(10月23～29日 名古屋市白鳥公園エキスポゾーン)に参加し、虎ノ門・六本木地区再開発での取り組み(下記参照)の紹介を中心に、生物多様性に配慮した都市づくりについて解説します。当社は、2008年5月にドイツ・ボンで開催されたCOP9の「ビジネスと生物多様性イニシアチブ」に参加、署名。港区の当社事業地を拠点として、都市域におけるエコロジカル・ネットワークを構築し、生物多様性に配慮した街のモデルづくりを進めています。

虎ノ門・六本木地区再開発：都市再開発に生物多様性の視点を取り入れた日本初の試み
現在工事中の虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業(2012年竣工予定)では、緑地計画作成にあたって、現況調査や文献調査をもとに設定した在来種(当地域に従来生育する種)や潜在自然植生に配慮し、地域の自然の再生を目指しています。2009年11月に本事業は、JHEP 認証(生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量評価する認証)において、日本初となる最高ランク(AAA)を取得しました。

虎ノ門・六本木地区再開発で見られる(予定)生き物の一例 画像提供:(財)日本生態系協会



生物多様性推進事業を紹介する「虎六プロジェクトプレゼンルーム」開設

COP10 開催に先駆け、弊社施設内に虎ノ門・六本木地区再開発事業の現場を見渡せるプレゼンテーションルームを開設。模型等を設置して本事業の計画概要をご紹介するほか、当社の生物多様性に対する取り組みや緑豊かな街づくりについてもご紹介いたします。

ヒルズで学ぶ・感じる生物多様性

10月16日(土)には、COP10 開催にあわせ、アークヒルズを舞台に環境・生物多様性について親子で学ぶ「ヒルズ街育プロジェクト：親子でヒルズのみどり探検ツアー 秋・生物多様性編」を開催します。



添付資料：参考 森ビルの緑～量から質へ～(ヒルズで見られる生き物 など)

参考 生物多様性に配慮した街づくり(虎ノ門・六本木地区再開発)

< 本件に関するお問い合わせ先 >

森ビル株式会社 広報室 深野・森澤

TEL:03 - 6406 - 6606 FAX:03 - 6406 - 9306 E-mail:koho@mori.co.jp

森ビルの緑 ～量から質へ～

森ビルの「緑」の歴史

森ビルは創立以来、都市緑化の先駆けとして、緑あふれる街づくりに尽力してきました。そして今、第二転換期として、面的な緑化から、緑化の質を追求し生物多様性に配慮した街づくりを行っています。

単独ビル開発での展開

「緑と光の豊かな街づくり」をスローガンに掲げ、まず単独ビルの建築物周辺にて緑化の取り組みを開始しました。

- 1950's
- 1960's **59 森ビル株式会社設立**
- 1970's **単独ビルの開発**

アークヒルズ：屋上緑化の先駆け



第一転換期

複合再開発での展開

大規模な都市再開発の取り組みを開始。屋上緑化にも努め、緑被率約30%、なかには40%を超える「緑」を確保しています。（参考 港区全域 緑被率：20.5%）

- 1980's
- 1990's
- 2000's
 - 86 アークヒルズ竣工（緑被率：37.5%）
 - 01 愛宕グリーンヒルズ竣工（緑被率：44.4%）
 - 02 元麻布ヒルズ竣工（緑被率：44.3%）
 - 03 六本木ヒルズ竣工（緑被率：26.5%）
 - 06 表参道ヒルズ竣工（緑被率：28.4%）
 - 08 上海環球金融中心(SWFC)竣工

アークヒルズで見られる生き物



セミ以外の画像提供：（財）日本生態系協会

虎ノ門・六本木地区再開発



第二転換期

新たな緑化への展開

COP9にて「優良企業の生物多様性リーダーシップ宣言」に署名。「みどり」の量だけでなく、「質」（=生物多様性）に配慮した緑化の取り組みを開始しました。

- 2010's
- 12 虎ノ門・六本木地区市街地再開発計画 竣工予定



昭和49年の森ビル入社案内「緑と光の豊かな街づくり」がスローガン

六本木ヒルズ：歴史的庭園の再生



六本木ヒルズで見られる生き物



生物多様性に配慮した街づくり（虎ノ門・六本木地区再開発）

コンセプトは「緑の生活都心」

虎ノ門・六本木地区市街地再開発計画では、「緑の生活都心」をコンセプトに、居住機能と商業・業務機能等が高次に複合した国際性・文化性の豊かで魅力ある街づくりを目指しています。その柱の一つとして、生物多様性に配慮した外構設計を実施しました。計画段階から生物多様性に貢献する様々な取り組みを行い、地域の自然再生や「生き物環境」の向上を試みています。これは森ビルにおける「都市と生物多様性」のイニシアティブになると同時に、これからの「都市緑化」に対する方向性を示すものになると考えています。

都市再開発に生物多様性の視点を取り入れた日本初の試み



緑地計画作成にあたっては、現況調査や文献調査をもとに設定した在来種や潜在自然植生に配慮し、地域の自然の再生を目指しました。都市再開発における緑地計画に対し、生物多様性の観点を取り入れた手法（JHEP認証）を用いて評価する取り組みは、日本で初めての試みです。評価の結果、本計画が過去30年間における緑地の価値を大きく上回るものとなり、AAA（最高ランク）の認証取得へと至りました。

生物多様性の保全や回復に貢献

1. 在来種・潜在自然植生をベースとした緑地：計画地の地域植生を再生する 主な在来種：スダジイ、タブノキ、アラカシ、エゴノキ、ヤマボウシ ほか
2. まとまりのある緑地：緑化効果を高め周囲と結ぶ
3. 緑被ボリュームの高い立体的な緑地：生きものの住みやすさに貢献
4. 特殊な環境要素：枯れ木・樹洞・落ち葉といった環境要素への配慮

虎ノ門・六本木地区再開発
建築概要
敷地面積：15,350㎡
緑被面積：5,297㎡
緑被率：30.0%（計画時）
用途：事務所・住宅・店舗等
竣工：2012年予定



虎ノ門・六本木地区再開発で見られる生き物（予定）



画像提供：（財）日本生態系協会

“ビジネスと環境の共生”のモデル地域

本地区は、外堀通り・桜田通り・外苑東通り・放射1号線に囲まれ、各国大使館が立ち並び国際色豊かな地域である通称「大街区」（約75ha）のほぼ中央に位置します。大街区では、港区の街づくりの整備方針に沿って、アークヒルズや泉ガーデンなど、段階的に、道路、広場等都市基盤の整備と複合的な都市機能の更新とが計画的に進められてきました。また、大街区を含む「環状2号線新橋周辺・赤坂・六本木地域」約590haは、平成14年7月に政府の都市再生本部より「都市再生緊急整備地域」に位置づけられ、東京の首都機能の中核を担うエリアとして都市機能の緊急的な整備が期待されています。



エコロジカルネットワーク

港区の当社事業地を拠点として、都市域におけるエコロジカル・ネットワークを構築し、生物多様性に配慮した街のモデルづくりを進めております。

尾根道沿いに皇居、麻布台方面へ連続する緑の骨格軸を形成する

